



東北支部

化学への招待

はじめに

福島県の化学教育普及活動は、福島地区、郡山地区及びいわき地区で毎年開催している。今回は、いわき地区の活動について報告いたします。

いわき地区の取り組み

いわき市は政令指定都市であるにもかかわらずいわゆる「科学館」がない。東京や仙台まで遠いわけではないが、子供たちを連れて体験実験をさせようと思ってもそう容易ではない。そんな中で12年前、福島高専の内田修司先生から声がかかり、いわき地区でも「化学への招待」を毎年開催することに決めた。当初、高専と大学の共同開催でスタートしたが、間もなく高校の化学の先生方にも参加していただけるようになった。一方、この地区では「いわき中学校理科同好会」という、中学校理科の先生方の集まりがあり、以前から子供たちの理科教育活動や普及活動に熱心で、その活動の一環として化学への招待にも参加していただけるようになった。このように、この地区では中学校教員、高校教員、高専教員、大学教員と強力な連携ができた。

中学の先生方には主に、小学校高学年を対象に実験を組んでいただく。小学生の場合は安全を考えて、基本的に保護者同伴としている。高校と高専の先生方に

は主に中学生を対象にテーマを組んでいただいている。大学では当初、高校生を対象にテーマを組んでいたが、私の力不足で多数の高校生を集結させるまでには至っていない。したがって、お願いする大学の講師には小学生から高校生に至るまで、全員が興味を持ち、理解できるテキストと解説をお願いしている次第である。アシスタントも、高校生、高専生、大学生そして卒業生と多彩であるが、日当は弁当代くらいでボランティア同然で働いていただいている。

このように、それぞれのグループから事前に提出していただいた4種類のテーマ（安全を見て定員は最大各30名）を各学校に案内し、児童及び生徒たちにエントリーしていただいて体験実験を進めている。幸い、ここ数年毎年100人以上の皆様参加があり、中には毎年楽しみにしてくれているリピーターもたくさんいる。



写真1 「身近な水溶液を目で楽しもう」

実験は、全体説明と移動時間を除き実質2時間半のテーマを午前と午後

ずつ組んでいる。元気な子供たちは、午前と午後、2つの実験を体験する者もいる。



写真2 「いろいろな結晶をつくって顕微鏡で見よう」

児童から生徒へ、そして生徒から学生へ、年を経るごとに科学への感動と目の輝きが減少しているように思える。しかし、さらに年を経て子供たちと同伴されている親御さん方は、子供に負けじと目が輝いているように見える。なぜそうなのかはよくわからないが、何とかしなければならない課題であると認識している。

おわりに

残念なことに、12年間連続で行ってきた「化学への招待」が、東日本大震災と原発事故のため今年度は開催できず、地域の子供たちをがっかりさせたに違いない。各学校の先生方とともに、来年度は万全を期し、復活を果たしたい。

〔2011年度いわき地区「化学への招待」代表
山浦政則（いわき明星大学薬学部教授）〕

© 2011 The Chemical Society of Japan